



看護の心をみんなの心に

5月12日は
看護の日

看護の心をみんなの心に

きょう、5月12日は「看護の日」。
これからの超高齢社会を支えていくためには、だれもが
看護の心、ケアの心、助け合いの心を持つことが必要です。
きょうの「看護の日」をきっかけに、看護について考えてみませんか。

「看護の日」PR大使・蛭原英里さんが ハローキティと病院訪問

(協力施設) 学校法人 聖路加国際大学 聖路加国際病院
(東京中央区・明石町) 4月21日



1 小児病棟で子どもたちとダンスやクイズを楽しんだ 2 子どもたちや看護師、保育士と記念撮影
3 左から聖路加国際病院の柳橋礼子副院長・看護部長、蛭原英里さん、ハローキティ、日本看護協会の井伊久美子専務理事

日本看護協会は、「看護の日」を通じて「看護の心」を社会に広く届けるための活動を続けています。

「看護の日」のさらなる認知・普及のために、看護師で芸能や文化など多方面で活躍している蛭原英里さんがPR大使に就任しました。蛭原さんは4月21日に聖路加国際病院で開かれた就任発表で「看護に従事する誰もが持つ人を助けようとする心、そして看護職そのものを多くの方に知ってもらいたいです」とあいさつ。

当日は同じく「看護の日」を応援するハローキティとともに同院の小児病棟を訪問し、子どもたちと楽しいひとときを過ごしました。



「看護の日」PR大使 蛭原英里さん

えびら・英里 / 2001年に看護師資格を取得。その後、千葉県内の総合病院のNICU(新生児集中治療室)に約5年間勤務。同院退職後は芸能や文化など様々な分野で活躍中。

看護で生まれる元気と笑顔
多くの人に伝えたい

第4回「忘れられない看護エピソード」内館牧子賞

全国から3,422通もの応募があった「忘れられない看護エピソード」。特別審査員の内館牧子さんが選んだ2作品を紹介します。

受賞作品を掲載します 本日12日(月)の夕刊から5日間にわたって「忘れられない看護エピソード」受賞作品を広告特集に掲載します。※掲載時期は変更になる場合があります。

看護職部門
内館牧子賞

「歩けない看護師でも」

安達千代美さん(兵庫県)

ある日突然右目が見えなくなり、手足がしびれ、多発性硬化症と診断された。その後も看護師を続けていたが、発症から3年後、大きな再発で長期入院を余儀なくされた。泣き叫んだこともあるほどつらいことのほうがはるかに多い入院生活で、看護師の言動に一喜一憂し、何気ない気配りや言葉が心に染み渡った。

歩けないという感覚が理解できず、ベッドから落ちたことも何度かあった。そんな時、「勝手に動かないで」「何で呼んでくれないの」と言われると、どうすることもできない悔しさと申し訳なさでつらさが増した。ある朝、ベッドから落ちた私に「ごめんね、びっくりしたね。怖かったでしょう。つらかったね」と、一言も否定せずに抱きかかえてくれた看護師の言動に、心からホッとしました。そして、私なら患者さんにこんな言葉掛けができるだろうか、自分の看護師としての言動を振り返っていることに気付いた。

寝たきりになり、食事も排せつもベッド上、病室から出るのはハピリの時だけという頃、その帰りに毎回、

当然のように洗面所へ連れて行ってくださる年配の看護師がいた。流水で手を洗えることにすごく喜びを感じた。また、病室の外で声を殺して泣いている母に寄り添ってくれている新人看護師に、感謝の気持ちでいっぱいになった。このような看護に触れたことで、寝たきりでも看護師復帰なんて望めないと思う反面、可能ならもう一度、看護師として働きたいという思いも強くなった。

8カ月の入院後、在宅医療、訪問看護を受けながらハピリを続け、3年間の休職を経て、車椅子ながら看護師としての復職がかなった。

退院調整看護師として13年目を迎えた今も、再発の不安におびえながら治療を続けている。「歩けない看護師なんて」という批判の声も耳にしたが、病気を経験したからこそ分かる不安や焦り、いら立ち、喜びなど、患者さんやご家族の思いに寄り添える看護師を目指して、病院中を車椅子で走っている。



作品朗読動画はこちら▲

一般部門
内館牧子賞

「身をもって…」

田中由美さん(福岡県)

「娘から、尻に指を突っ込まれた〜!!」
主人が笑顔でそう語った言葉は永遠に笑い話として語り継がれることであろう。

末期の大腸がんだった。主人は少しでも自宅で家族と過ごしたいと願ったので、在宅医療をすることに決めた。往診の先生、訪問看護師さんの協力の下、主人はつづいて幸せな時間を過ごすこととなった。

何より心強かったのはわが家の新米看護師さんの存在である。長女は看護学科の1年生。まだまだ勉強を始めたばかりで看護について何の知識もなかった。それでも自分の血圧計で父親の血圧を測り、顔色を見る。そして訪問看護師さんへの報告が日課となった。

ある日、往診の先生が来られた時のことである。主人はお尻の痛みを訴えた。直腸の入り口に腫瘍ができていたために痛い。娘が看護師を目指しているのと知っていた先生は触診をされ、「ほら!!

あなたもゴム手袋をつけて!! 人差し指を入れて、時計回りに3時から6時、6時から9時の方向に回してみて。そこに固いところがあるでしょう? それが腫瘍です」と説明した。びっくりしたのは娘と私。そして何より主人本人である。後に、お見舞いに来てくれた親戚や友人にうれしそうに語っていたその笑顔は今でも忘れられない。

この数カ月、娘は学校や病院実習でもできないような貴重な体験をさせてもらった。きっと主人は身をもって学ばせてくれたのだろう。父親の死を無駄にしないためにも、娘は素晴らしい看護師さんになってくれると信じている。

私は主人が生きた証をここに残したい。そして伝えたい言葉がある。「今までありがとう。これからもずっと一緒だよ。見守ってね」。



作品朗読動画はこちら▲



毎年5月12日は「看護の日」
今年の看護週間は
5月11日(日)~17日(土)

5月12日は「看護の日」。近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで制定されました。また、看護の日を含む日曜日から土曜日を「看護週間」としています。期間中は「忘れられない看護エピソード」の発表をはじめ、看護の心を伝えるイベントが全国各地で行われています。

【主催】厚生労働省 / 日本看護協会
【後援】文部科学省 / 日本医師会 / 日本歯科医師会 / 日本薬剤師会 / 全国社会福祉協議会
【協賛】日本病院会 / 全日本病院協会 / 日本医療法人協会 / 日本精神科病院協会 / 全国自治体病院協議会 / 日本助産師会 / 日本精神科看護協会 / 日本訪問看護団 / テルモ株式会社 / 東洋羽毛工業株式会社 / パラマウントベッドホールディングス株式会社 / 株式会社アンファミエ / 株式会社ソシエワールド / ナガイレーベン株式会社 / ワタキューセイモア株式会社

「忘れられない看護エピソード」朗読動画を公開中

第4回の受賞20作品の朗読動画を配信中です。
YouTubeでもご覧いただけます。

詳しくはこちら ▶ <http://www.nurse.or.jp/home/event/simin/rodoku/>

感動が今年も小冊子に 第4回「忘れられない看護エピソード」集

今年の受賞作品を集めた小冊子(A5サイズ24ページ)を希望者に差し上げます。*

■お申し込み方法

ハガキかFAX、またはメールに①郵便番号②住所③所属(または職業)④氏名⑤電話番号⑥希望部数を明記のうえ、下記事務局までお送りください。
【ハガキ】〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-7 東見ビル6F(エクスパラウド内) エピソード冊子事務局 【FAX】03-5312-7993 【E-Mail】kangonohi@episode.jp.net
※お預かりした個人情報は小冊子の発送と関連する情報提供にのみ使用します。

感動をいつでもあなたの手のひらに
スマホアプリ「忘れられない看護エピソード集」

これまでの受賞作品を、手軽にいつでも楽しめるスマートフォンアプリです。

■収録作品: 第1~4回の看護職部門・一般部門の最優秀賞、内館牧子賞、優秀賞、入選の合計82作品
■価格: 無料(iOS版 / Android版)

ダウンロード
▶ <http://www.nurse.or.jp/smt/>



「忘れられない看護エピソード」が書籍に
『いのち輝くいい話』

歴代の受賞作品の中から、えりすぐりの90の物語を収録しました。
■公益社団法人 日本看護協会(編)
発売: 河出書房新社

